

社会福祉士課程開設の意義と展望

社会マネジメント学科の立場から

山 口 由紀子

はじめに

2016（平成28）年4月より、社会マネジメント学科に、人間心理学科との連携により、社会福祉士国家試験受験資格課程が開設される。社会福祉士は、ソーシャルワーカーの国家資格であり、健康や生活上の心配ごとを抱えている人や家族からの相談を受け、一緒に考え、解決を方向づけていく役割を担う専門職である。社会福祉士の活動領域は、各種社会福祉施設、行政機関、社会福祉協議会（社協）、病院、地域包括支援センター、福祉NPO法人など幅広く、社会福祉の各領域に総合的に対応できる資格として、近年、その活動範囲は拡大している。

社会における福祉ニーズの多様化

現在、わが国において少子高齢化が急速に進行し、総人口の4分の1超を高齢者が占める（25.8%。平成25年8月1日現在¹⁾）。そして、認知症高齢者は2025（平成37）年には約700万人になると推計されている²⁾。

一方、家族生活や地域社会は変化している。その中で、高齢期の生活、生存を維持するための、社会的なしくみの充実、環境づくりの必要性が高まっている。同様に、子どもの養育における社会的養護の役割、障害者の地域生活の支援など、今日的な福祉課題への対応が幅広く求められている。

社会マネジメントの視点からの社会福祉へのアプローチ

このように、日常的に福祉について考える場面が増えており、これからの社会を生き抜くために、社会福祉の素養を身につけることは重要であろう。

社会マネジメント学科では、従来、生活上起こる、身の回りの問題を自身の問題としてとらえ、地域の人たちと協力して、解決策を提案し、実行できる人材を育成してきた。今回、社会福祉士課程を新たに設置することにより、学科の学びを通して修得される「社会マネジメント力」を福祉分野に活かし、地域、社会の福祉ニーズに即した「しくみ」づくりに協力、参画し、そこから地域社会において人々が支え合う関係をともにつくり、生活の維持・充実を図っていくことができる人材を育成していく。

学生の卒業後の進路、キャリア形成

近年、人間社会学部（社会マネジメント学科、人間心理学科）において福祉関連施設へ就職する卒業生が増加している。福祉施設側には、福祉学科の出身学生だけではなく、幅広い学問を学んだ学生を採用したいとのニーズがある。そこで、課程の設置により、両学科の既存のカリキュラムを土台として、社会福祉分野の科目を充実させ、これからの地域福祉を担う専門的人材を養成し、卒業後の長期的なキャリア形成を支援していく。この点で、社会マネジメント学科では従来、公務員などの地域の公共的な仕事に就きたいと希望する学生が少なくない。国家資格を取得することにより、関係機関・施設において社会福祉の専門職に就くなど、地域におけるキャリアの選択肢の広がりが見込まれる。

学科や課程で学ぶ学生の、将来に向けた、地域や社会福祉分野における幅広い活躍に期待したい。

[注]

- 1) 総務省「人口推計—平成27年 1 月報—」（2015年 1 月20日） <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/201501.pdf>（以下、本稿のウェブ・サイトアドレスは2015年 2 月16日現在のものである）。
- 2) 厚生労働省「『認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）』について」（2015年 1 月27日） <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000072246.html>。